

第13回薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

2025(令和7)年12月4日

資料 1

# 薬剤耐性ワンヘルス動向調査について

厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

## 国際的に脅威となる感染症対策の強化のための国際連携等関係府省連絡会議

(薬剤耐性 (AMR) アクションプランのフォローアップ、年度末)  
: 内閣官房内閣感染症危機管理統括庁



### 厚生科学審議会感染症部会



### 薬剤耐性 (AMR) 小委員会



※厚労省関係の審議会のみ記載

## 薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

(アクションプランの進捗状況に資する調査)  
: 厚生労働省、農林水産省、内閣府食品安全委員会、環境省 等

### 年次報告書

- ・日本語版
- ・英語版
- ・サマリ版

### データの基礎となる調査事業等

#### 厚労省

- ・院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS)
- ・感染症発生動向調査事業
- ・感染対策連携共通 プラットフォーム (J-SIPHE)
- ・抗菌薬使用サーベイランス
- ・厚労科研・AMED
- ・疫学調査

#### 農水省

- ・動物由来薬剤耐性菌モニタリング (JVARM)
- (生産資材安全確保委託事業、消費・安全対策交付金事業)
- ・各種法令等に基づく届出・報告等

#### 内閣府・食安委

- ・食品健康影響評価技術研究事業

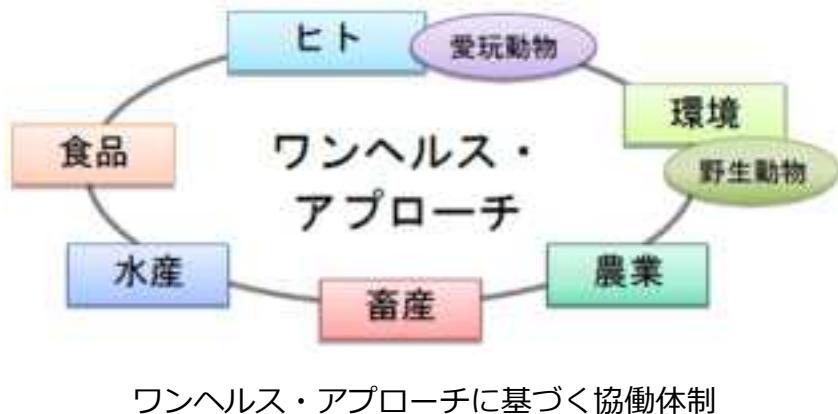
#### 環境省

- ・環境研究総合推進費
- ・環境水中における薬剤耐性大腸菌存在状況調査(試行)
- ・化学物質環境実態調査

## 目標2. 戰略2.5 ヒト、動物、食品、環境等に関する総合的なワンヘルス動向調査の実施

### 【背景】

- 薬剤耐性（AMR）の伝播経路を断ち切るために、どの種類の薬剤耐性（AMR）がどの経路により、どの程度広がっているのか、という薬剤耐性（AMR）の生態系を正確に把握する必要がある。
- 我が国におけるヒトや動物等に対する、薬剤耐性菌及び抗微生物剤の使用量（AMU）のサーベイランス体制としては「院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）」、「感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）」、「動物由来薬剤耐性菌モニタリング（JVARM）」、等がある。



### 【方針・取組】

- 複数の動向調査・監視を統合した、ヒト、動物等の垣根を越えた動向調査体制（ワンヘルス動向調査体制）を確立するため、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」を設置する。
- 「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」において、各動向調査・監視の情報を連携させ、国際比較等も行いながら、薬剤耐性（AMR）の推移や対策等について分析・評価を行う。また、評価結果は「動向調査報告書」として、毎年公表し、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）」の評価に活用する。

### 【関係府省庁・機関】

内閣府食品安全委員会、農林水産省、環境省、厚生労働省

国立感染症研究所、動物医薬品検査所、農業・食品産業技術総合研究機構、農林水産消費安全技術センター、国立国際医療研究センター、保健所、地方衛生研究所、家畜保健衛生所

## 1. 目的

近年の薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）対策を進める機運の高まりのなかで、ヒト、動物、食品、環境といった垣根を超えた「ワンヘルス」としての薬剤耐性に係る統合的な動向調査の重要性が指摘されている。

令和5年4月7日に策定された「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2023-2027」においても、このような「薬剤耐性ワンヘルス動向調査」に係る体制を推進することとしている。

こうした状況を踏まえ、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査」に係る技術的事項について検討することを目的として、**厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長**の下、有識者の参集を求め、薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会（以下「検討会」という。）を開催し、所要の検討を行い、**年次報告書**をとりまとめる。

## 4. その他

（1）検討会は**厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長**が開催する。

（2）検討会の庶務は、**農林水産省消費安全局畜水産安全管理課**、**環境省水・大気環境局総務課**の協力を得て、**厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課**において処理する。

（3）検討会は、原則として**公開**とする。

（4）この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、検討会において定める。

### 薬剤耐性(AMR)に関する小委員会

- 厚生科学審議会感染症部会の下に設置
- 薬剤耐性対策アクションプラン(教育・普及啓発、動向調査・監視、感染予防・管理、抗微生物薬適正使用、研究開発、国際協力等)に関する対策のうち、厚労省が所管する専門的・技術的事項の審議
- 薬剤耐性対策アクションプランのうち、主として、ヒトの健康に関する対策の進捗評価・等

### 抗微生物薬適正使用(AMS)等に関する作業部会

- 薬剤耐性(AMR)に関する小委員会の下に設置
- 適正使用に関する専門家等により構成
- 抗微生物薬適正使用等に関する技術的助言
  - 抗微生物薬適正使用を推進するための指針等の検討
  - 研究結果等に基づいた抗微生物薬適正使用に関する施策の提言 等

### 薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

- 薬剤耐性に関する動向調査・監視等に関する実施機関、専門家等により構成
- 薬剤耐性に関する「ワンヘルス・サーベイランス」に関する技術的助言
  - 動向調査・監視の分析項目や体制等の検討
  - 動向調査・監視の結果に基づく薬剤耐性対策に関する施策の提言 等

# 薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2025（本文）：目次

1. 前文	1
2. 略称	2
3. 抗菌薬・抗菌剤の種類と略号	4
4. 要旨	8
5. アクションプランの成果指標	12
6. 日本における耐性菌の現状	16
(1) ヒト	16
① グラム陽性菌	16
② グラム陰性菌	24
③ 薬剤耐性菌感染症	30
④ その他の耐性菌	32
⑤ <i>Candida auris</i>	43
⑥ <i>Mycobacterium tuberculosis</i>	43
⑦ <i>Clostridioides difficile</i> 感染症	44
⑧ 院内感染症の発生状況	45
⑨ 病院における感染診療・感染対策・疾患負荷に関する調査	46
⑩ 痢疾病床および高齢者施設における感染症および抗菌薬使用に関する調査	51
(2) 動物	53
① 家畜由来細菌	53
② 養殖水産分野	72
③ 愛玩動物	76
④ 野生動物	84
(3) 食品	89
(4) 環境	91
① 厚生労働省の厚生労働科学研究による結果	91
② 環境研究総合推進費課題成果（令和2年度～令和5年度）	93
(5) 薬剤耐性菌のゲノム比較からみたヒト・動物・食品・環境の関連性	97
① ヒト由来薬剤耐性菌と食品由来・動物由来薬剤耐性菌のゲノム比較	97
② WHO サーベイランスと協調したワンヘルス薬剤耐性菌動向調査（三輪車プロジェクト）	113
③ 家畜由来薬剤耐性菌の水道・土壌環境を介した野菜汚染の定量評価及びヒトへの伝播に関する研究（食品健康影響評価技術研究による成果（令和2年度～令和3年度））	117
7. 日本における抗菌薬使用量の現状	119
(1) ヒト用抗菌薬	119
① 日本全体の抗菌薬使用状況	119

## 【提案事項】

⑪として「日本におけるカルバペネマーゼの状況」を追加してはどうか（後述）

## 目次

アクションプランの成果指標	1
セクション A 薬剤耐性菌	5
A1: ヒトにおける薬剤耐性菌	6
A1.1 グラム陰性菌	6
A1.2 グラム陽性菌	7
A2: 動物における薬剤耐性菌	8
A2.1 家畜由来細菌	8
A2.2 養殖水産分野	9
A2.3 愛玩動物	9
A2.4 野生動物	10
A3: 食品中の薬剤耐性菌	11
A4: 環境中の薬剤耐性菌	13
A4.1 下水処理場(水再生センター)放流水のメタゲノム解析(Metagenomic DNA-Seq)	13
A4.2 下水処理場(水再生センター)放流水の残留抗生物解析	14
A5: 薬剤耐性菌のゲノム比較からみたヒト、動物、食品、環境の関連性	15
A5.1 ヒト由来薬剤耐性菌と食品由来、動物由来薬剤耐性菌ゲノム比較	15
A5.2 WHO サーベイランスと協調したワンヘルス薬剤耐性菌動向調査(三輪車プロジェクト)	18
セクション B 抗菌薬使用量	20
B1: 日本における抗菌薬使用の現状	21
B2: 抗菌薬の使用状況(分野別)	22
B2.1 ヒト用抗菌薬の系統別使用動向	22
B2.2 AWaRe リストに掲載されている抗菌薬の使用割合	22
B2.3 動物への抗菌薬使用量	23
B2.4 抗菌性飼料添加物の流通量	25
B2.5 農薬として用いられている抗菌剤の国内出荷量	25
セクション C 病院内の感染症	26
C1: 院内関連感染症(HAI)などにおける薬剤耐性菌	27
C1.1 院内関連感染症(HAI)の発生率	27
C1.2 病院における感染診療・感染対策・疾病負荷に関する調査	27
C1.3 療養病床及び高齢者施設における感染症に関する調査	28
C2: 手指衛生プラクティスの現状	30
セクション D 薬剤耐性に関する意識調査	31
D1: 一般国民への調査	32
D2: 医療関係者への調査	33

環境分野の記述を追加。

## 【時点更新】

### ○ 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）の成果指標、等

成果指標については、特定の薬剤耐性菌の分離率および抗菌薬使用量について、ヒトでは2024年、動物では2023年のデータを追加した。また、全体的に時点更新を行った。

## 【新規追加項目】

### ○ サマリ版に、環境に関する内容（本文「6. (4)環境」）を追加した

「① 厚生労働省の厚生労働科学研究による結果」および「② 環境研究総合推進費課題成果」を要約して追加した。

※参照：【資料3】薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2025 サマリ版（たたき台）

## 【方針（案）】

### ○ 「日本におけるカルバペネマーゼの状況」をワンヘルス動向調査年次報告書へ追加してはどうか

JARBS-GNRの研究であり、日本の腸内細菌目細菌の臨床株における、カルバペネマーゼの耐性遺伝子の保有状況、およびセフィデロコルなどの新薬（7種）に対する薬剤感受性の状況について記載。

※参考: 【資料4】 日本におけるカルバペネマーゼの状況（案）

6. 日本における耐性菌の現状	16
(1) ヒト	16
① グラム陰性菌	16
② グラム陽性菌	24
③ 薬剤耐性菌感染症	30
④ その他の耐性菌	32
⑤ <i>Candida auris</i>	43
⑥ <i>Mycobacterium tuberculosis</i>	43
⑦ <i>Clostridioides difficile</i> 感染症	44
⑧ 腸内感染症の発生状況	45
⑨ 病院における感染診療・感染対策・疾病負荷に関する調査	46
⑩ 療養病床および高齢者施設における感染症および抗菌薬使用に関する調査	51
(2) 動物	53
① 家畜由来細菌	53
② 農業水産分野	72

追加箇所は

「6. 日本における耐性菌の現状」

「(1) ヒト」

⑪として